

第3学年【音楽科】学習指導案

日時 平成15年6月30日(月) 5校時

生徒 3年5組 男子23名 女子19名 計42名

指導者 盛島浩子

1 題材名 「アドリブを楽しもう」

2 題材について

(1) 教材観

新学習指導要領には、第2, 3学年の目標として、「音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味、関心を高め、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、生涯にわたって音楽に親しんでいく態度を育てること」が示されている。また、表現の内容として、(オ) 歌詞にふさわしい旋律や楽器の特徴を生かした旋律を作り、声や楽器で表現すること。(カ) 表現したいイメージや曲想をもち、様々な音素材を生かして自由な発想による即興的な表現や創作をすること。とある。

本題材では、ジャズの演奏に触れ、その特徴を理解すると共に、そのアドリブの創作を通じて音楽に主体的に関わり、様々なジャンルの音楽に親しもうとする姿勢を身につけさせることをねらいとしている。

(2) 生徒観

男女ともに仲が良く、お互いの良さを認め、助け合おうという意識のある学級である。音楽においても、授業にまじめに取り組み、パート練習や小アンサンブルなどでも、お互いに協力し合って練習を進めることができる。2年生の3学期に行った、“Kum·ba·yah!”の小アンサンブルでは、演奏のしかたや表現を工夫し、楽しみながらグループ発表をすることができた。

生徒たちは、鍵盤楽器が比較的好きである。実際にピアノなどの鍵盤楽器を習ったことがある生徒は3名ほどであるが、授業の前後にピアノの周りに集まり、鍵盤をいじっているところを見ると、ほとんどの生徒がかっこよく弾きこなしてみたいと思っているのではないかと感じる。

(3) 指導観

生徒達にとって、ジャズはあまり聴くことのないジャンルだと思われる。まして、ジャズふうのアドリブを自分が演奏してみるということに対して、かなりの抵抗感があるのは当然であろう。

本題材は、オスカー・ピーターソン作曲の「自由への賛歌」の鑑賞をもとに、さらに即興演奏へと発展させていくものである。簡単な二つのナインスコード(Dm9、G9)による伴奏に、幹音のみのアドリブを重ねていくことにより、“ジャズふう”の演奏を楽しむことができる。Dm9とG9は、どちらも幹音(白鍵の音)だけで構成されており、この和声進行にのせるとどんな幹音でも旋律音として感じられる。このことが、

”アドリブは難しい”、という抵抗感を和らげ、自分達にもできそうだと思うのではないかと考える。

キーボードで音を探りながらリズムやメロディーラインを工夫し、自分の好きなアドリブを作っていくおもしろさを見出し、即興表現の楽しさを味わわせたい。また、みんなで演奏しあい、聴きあいながらジャズっぽさを感じ、さらに様々な音楽に主体的に親しもうとする心情を育てたい。

<教材曲> 「自由への賛歌」(CD:オスカー・ピーターソン・トリオ)
 「Halleluyah Time」(DVD:オスカー・ピーターソン・トリオ)
 「Cakewalk」「Blues Etude」
 (DVD:オスカー・ピーターソン・カルテット)

3 題材目標

- (1) ジャズに関心を持ち、リズム、旋律、ハーモニーなどの特徴を捉えて意欲的に即興表現をすることができる。
- (2) ジャズにおけるリズム、旋律、ハーモニーなどの特徴を感じ取り、旋律の即興表現を工夫して行う。
- (3) 伴奏のリズムやコード進行に合わせて、工夫して即興演奏をする技能を身につける。
- (4) ジャズの歴史や時代背景についての理解を深め、特徴を感じ取りながら聴くことができる。

4 題材評価規準及び指導計画(3時間扱い)

評 価 規 準	ア、【音楽への関心・意欲・態度】			
	ジャズに関心を持ち、イメージを持って即興表現することに意欲的である。			
	イ、【音楽的感受や表現の工夫】			
	ジャズの特徴を捉え、伴奏のリズムやコード進行に合わせた即興表現を工夫している。			
	ウ、【表現の技能】			
伴奏のリズムやコード進行に合わせて、音階やリズムを工夫して即興的に表現する技能を身につけている。				
エ、【鑑賞の能力】				
歴史や時代背景と関わらせながらジャズの特徴を感じ取っている。				
次	ステップ	指導内容	評価規準	時数
1	ジャズを聴いて感じて つかむ	オスカー・ピーターソントリオの演奏を視 聴し、ジャズの雰囲気や特徴をつかむ。	ア エ	1
2	ジャズふうのアドリブ を作ってみる	第1次でつかんだことをもとに、キーボ ードでジャズふうのアドリブを弾いてみる。	ア イ ウ	1
3	発表し聴き合う	互いにアドリブを演奏しあい、聴きあう。 学習のまとめをする。	ア イ ウ エ	1 本時

5 本時の指導

(1) 目標 伴奏のリズムやコード進行に合わせてジャズふうのアドリブを演奏しあう。

(2) 判断規準

評価場面	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	C：支援を要する生徒への手だて
グループごとにキーボードで演奏する	イメージを持って伴奏のリズムやコード進行に合わせて即興的に演奏を工夫することができる。	伴奏のリズムやコード進行に合わせて演奏することができる。	リズムに乗りながら自由に音遊びをしてみるように助言する。
グループごとの演奏を聴きあう	工夫点や特徴を音楽の諸要素と関わらせて鑑賞することができる。	工夫点や特徴に気づきながら鑑賞することができる。	音楽の諸要素との関わりについて具体的に助言する。

(3) 展開

時間	学 習 活 動	教師の支援 (○) と評価 (★)
導 入 10 分	1. 前時の学習内容を想起する。 2. オスカー・ピーターソンの演奏場면을視聴し、アドリブのしかたを確認する。 ・ひとり4小節分を割りあてる。 ・白鍵のみを使い、和音は使わないこと。 ・メロディーラインを工夫すること 3. 本時の目標を確認する。	○授業に対して前向きに取り組む雰囲気作りを心がける。 ○前時で作ったメロディーにあまりこだわらずに、今日の気分で自由に作ることを強調する。 ○紙板書、DVD
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> みんなでジャズふうのアドリブを演奏してみよう </div>		
展 15 分	4. 前時で自分が作って見たアドリブを思い出しながら、グループごとにキーボードで練習する。 (4人一組で1台のキーボードを使って音遊びの感覚で練習する)	○メロディーラインやリズムの工夫などの助言、指導 (B→A) ○複雑なメロディーにしなくても、2小節分を繰り返したり、1部分を少し変えるだけでも良いことを助言する。 (C→B→A) ○自由に音遊びをしてみるよう助言する。 (C→B) ○リズムにのって、自分なりのアドリブを演奏し、お互いに楽しんで聴くよう助言する。 ★伴奏のリズムやコード進行に合わせて自分なりにジャズふうのアドリブを演奏しているか。
開 15 分 ま と め 10 分	5. 伴奏に合わせてグループごとに演奏し、聴きあう (生徒による伴奏に、教師が教科書P.28の4小節のテーマを演奏し、それにながて1人ずつアドリブを演奏していく)	★他の演奏の特徴を感じ取って聞いているか。 ○本時の活動を振り返り、自分なりに感じたことや考えたことを記入するよう指導する。 ○ジャズの歴史や時代背景について簡単に説明して終わる。DVD
	6. 自己評価カードに記入しながら今日の取り組みをまとめる。 (自己評価の後、教師の説明を聞きながら再び演奏場면을観て終わる。)	